

現代敬語事情

——高校生・短大生のアンケート結果
に見る意識と使用——

内 山 理 恵

目 次

はじめに

1 アンケートについて

- (1) 実施日
- (2) 回答者
- (3) 質問内容

2 敬語意識

- (1) 自己の使用意識
- (2) 先生に対する敬語使用
- (3) 敬語の種類を使いやすい順序

3 敬語使用

- (1) 「謙讓」＋「尊敬」の敬語
- (2) 一般化しつつある敬語
- (3) 先生と敬語使用の関係
- (4) 「しりません」・「きいてません」

4 現代敬語の特色

- (1) 現代敬語の問題点
- (2) 敬語使用の留意点

おわりに

<資料>

はじめに

「敬語」と聞くと、堅く、難しく感じる人も多いと思うが、私が「敬語」について卒業論文を書いてみようと思ったのは、1990（平成2）年5月10日（木曜日）の中国新聞一女性一欄を読んだ時であった。

広島市内にある中国電力、広島銀行、NTT中国支社の3社で聞いた女性新入社員1カ月の評判記で、その中に、

「今年の新人に限らず、敬語の使い方が苦手」（中略）

「部長に電話が掛かってきた時『はい、部長はおられます』などと答えるんです。謙譲と尊敬がごっちゃになっている」

といった文があった。

私はこの部分を読んだ時、どきっとした。来年の春には社会人となるのに、敬語を上手く使える自信がない。また、「おられます」にこれとあって疑問を感じなかった。逆にどこがおかしいのだろうと思った。

私は、このことをきっかけに「敬語」に興味がわき、いろいろと知りたくなった。そして、少しでも「敬語」を上手く使えるようになったらとも思い、卒業論文で取り上げ、研究してみることにした。

卒業論文を書くにあたり、高校生と短大生に敬語意識と敬語使用を問うアンケートを実施した。そのアンケート結果を基に、学生の敬語、現代の敬語について考えるとともに特色や問題点などにも触れられたらと思う。

1 アンケートについて

本論文を書くための資料として行ったアンケートの実施日、回答者、質問内容は次に記すとおりである。

(1) 実施日

高校生 1990（平成2）年9月4日～7日

短大生 1990（平成2）年9月8日～14日、10月13日

(2) 回答者

広島市立舟入高等学校1、2年生275名と、比治山女子短期大学国文科1年生234名に回答してもらった。

なお、高校生のアンケートをとるにあたり、広島市立舟入高等学校の宮崎浩文先生に御協力いただいた。

回答者数の詳細は以下に記すとおりである。

高校生 1年生 男子71名、女子67名 計 138名

2年生 男子69名、女子68名 計 137名

総数 男子 140名、女子 135名 計 275名

短大生 1年生 234名

(3) 質問内容

最後の〈資料〉の項目に掲げる。

2 敬語意識

(1) 自己の使用意識

ここでは、質問項目Ⅰ.1.と2.を分析し、考察していく。Ⅰ.1.と2.の質問は次のとおりである。

Ⅰ.1. 敬語を上手く（正しく）使えますか。

Ⅰ.2. 「敬語を使うのは難しい」と感じたことはありますか。

はじめに、Ⅰ.1.の分析結果を掲げ、考察する。1.では「使える、だいたい使える、少し使える、あまり使えない、使えない」の5つの選択肢の中から回答してもらった。

◎敬語を上手く(正しく)使えますか。

	高校生 (%)	短大生 (%)
使 える	6.2	1.3
だ いた い 使 える	40.0	41.9
少 し 使 える	37.8	38.5
あ ま り 使 え な い	14.2	17.1
使 え な い	1.5	1.3
無 効	0.4	0

高校生も短大生も同じような結果が出た。「使える」とまでは言えなくても「だいたい使える」、「少し使える」と、ある程度以上は使えるという結果が多く出ている。「使える」の結果に、高校生と短大生の差が約5%あるが、高校生の6.2%の内訳は、男子が6.2%中5.9%も占める。これは、男子と女子の何らかの意識の違いが表われているのではないかと思われる。

「使える」「だいたい使える」「少し使える」の3つの「使える」を総合して見てみると、高校生は84%、短大生は81.7%と、全体の8割を占める。「あまり使えない」「使えない」と回答した人が思ったよりも少なかったことには驚いた。何らか「使える」と回答した人が8割もいたわけだから、「敬語ぐらい使える」というような意識を持っている人が多いのではないだろうか。これは自信とはまた少し異なると思うが、自己の意識を高く評価しているように思われる。回答者が実際に上手く(正しく)使えているとは言い難い。

次にⅠ.2.の分析結果を掲げ、考察する。2.では「ある、ときどきある、ない」の3つの選択肢の中から回答してもらった。

◎「敬語を使うのは難しい」と感じたことはありますか。

	高校生 (%)	短大生 (%)
あ る	26.2	40.2
と き ど き あ る	54.2	54.3
な い	18.5	5.1
無 効	1.1	0.4

高校生も短大生も「ときどきある」が一番多かった。「ある」「ときどきある」の結果を総合して見てみると、高校生80.4%、短大生94.5%と、全体の8割、9割を占める。

「敬語を使うのは難しい」と感じたことのある人は、どのような時に感じたことがあるのだろうか。アンケートではここまで問うていないのでよくわからないが、多くの人が「難しい」と感じたことがあることについて、次のような要因が考えられる。自分の敬語の使用習慣（傾向）や意識を越えてしまっていたり、「難しい、分からない」といった固定観念をもともと持っていたり、古典で学ぶ古典の敬語を現代の敬語と混同したり、人間関係を上手くとらえられないなど。

「ある」と「ない」では、高校生と短大生の結果が逆に出たが、短大生は高校生に比べ、ある程度の経験、つまり受験での面接やアルバイトなどが少しは影響して出ているのではないかと思う。

I. 1. と 2. を考察して、敬語を上手く（正しく）使えるということと、敬語を難しく感じたことがあるということには、これといった関係は見られない。言いかえれば、「難しい」と感じたことがあるから上手く（正しく）使えないというわけではないし、「難しい」と感じたことがないから上手く（正しく）使えるというわけでもない。だが、あくまで回答者の意識内での回答なので、実際の使用で感じたことは、回答と少し違ってくるとも言えるだろう。

(2) 先生に対しての敬語使用

ここでは、質問項目 I. 5. を分析し、考察する。質問は次のとおりである。

I. 5. 先生に対して敬語を使いますか。

「使う、先生によって違う、使わない」の3つの選択肢の中から回答してもらった。結果は次のとおりである。

	高校生 (%)	短大生 (%)
使　　う	34.2	63.7
先生によって違う	60.4	34.6
使　わ　な　い	4.7	0.9
無　　効	0.7	0.9

高校の先生にでも、短大の先生にでも、「敬語」を使うのは当然であるはずだが、以上のような結果が出た。特に、高校生の「先生によって違う」に注目したい。60.4%と6割もいる。「先生によって違う」ということは、どのような先生の時に「敬語」を使い、使わないのであろうか。私なりに考えたことを次に挙げてみたい。

「敬語」で話す先生というのは、あまり親しくない、年齢が離れている、厳しい（怖い）、尊敬している、好きである、「敬語」を使うのは当然である（慣習に従うため）、などが考えられるであろう。それに対し、「敬語」で話さない先生というのは、親しみやすい（気軽に話しやすい）、年齢が近い（若い）、尊敬していない、嫌いである、などが考えられる。

しかし、一概に「敬語」を使わないから「敬意」がないとも言えないだろう。高校生と短大生の「使う」「先生によって違う」の回答が逆に表われているが、先生に対する意識の違いがあると思われる。

I. 5. を考察して、自分と先生との関係、立場を認識することが大事であると言えるだろう。

(3) 敬語の種類を使いやすい順序

ここでは、質問項目 I. 6. を分析し、考察する。質問は次のとおりである。

I. 6. 尊敬語（おっしゃる、いらっしゃる…）、謙譲語（申す、申しあげる、さしあげ…）、丁寧語（です、ます、ございます…）の中で使いやすい順は。

使いやすい順に番号を書いてもらった。結果は次のとおりである。

順	高 校 生 (%)		短 大 生 (%)	
1	丁・尊・謙	73.8	丁・尊・謙	80.3
2	丁・謙・尊	9.1	丁・謙・尊	7.3
3	尊・丁・謙	5.8	尊・丁・謙	6.4
	そ の 他	2.2	そ の 他	0.9
	無 効	9.1	無 効	5.1

高校生も短大生も数値は異なるが、全く同じ結果が出た。さらに、上の結果を基に、尊敬語、謙譲語、丁寧語の中で1番目、2番目、3番目が、それぞれどのような数値であげられているかを調べてみると、次のようになった。

○ 高 校 生 (%)

	尊 敬 語	謙 譲 語	丁 寧 語
1 番 目	6.9	1.1	82.9
2 番 目	74.5	10.2	6.2
3 番 目	9.5	79.6	1.8

○ 短 大 生 (%)

	尊 敬 語	謙 譲 語	丁 寧 語
1 番 目	6.4	0.9	87.6
2 番 目	80.3	7.3	7.3
3 番 目	8.2	86.7	0

尊敬語、謙讓語、丁寧語の中の順で一番多かった回答は、「丁寧語、尊敬語、謙讓語」であった。そして、1番目、2番目、3番目にあげられた回答も、「丁寧語、尊敬語、謙讓語」であった。

以上の2つの結果から考えると、これらの回答は、「敬語使用」にも関わってくる問題であろう。特に尊敬語と謙讓語は関係してくると思う。ここで得た結果を、次章の「敬語使用」の中で見たい。「丁寧語、尊敬語、謙讓語」の順の理由がわかる、つかめるかもしれない。

ところで、少数回答も見落してはならないであろう。少なくとも、少数回答のように思っている人もいるということである。

3 敬語使用

(1) 「謙讓」＋「尊敬」の敬語

ここでは、質問項目Ⅱ.2と3を分析し、考察していく。まずⅡ.の質問を次にあげておく。

Ⅱ. 下記の文を読んで、敬語の使い方が正しいと思うものには○、正しくないと思うものには×を()に入れて下さい。また、正しくないと思う文は、その部分に下線を引き、正しいと思われる表現を〔 〕に書いて下さい。

2.と3.の質問は次のとおりである。

Ⅱ. 2. 大臣が申されました。

Ⅱ. 3. 「専務はおられますか。」「はい、おられます。」

はじめに、Ⅱ.2.の分析結果を掲げ考察を進める。

◎ 大臣が申されました。

	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
○	66.2	53.8
×	28.7	41.9
無 効	5.1	4.3

×をした人の表現

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	おっしゃいました 35.4	おっしゃいました 54.1
2	おっしゃられました 19.0	おっしゃられました 14.3
3	おっしゃった 8.9	おっしゃった 6.1
4	おっしゃりました 7.6	おっしゃりました 5.1
	そ の 他 29.1	そ の 他 20.4

○をした人が高校生、短大生とも、半数以上もいた。それは、「申されました」という表現が正しい、おかしくないと思ったためである。

しかし、「申されました」は「申す」という謙譲語と、「れる」という尊敬の助動詞が接続した言葉であり、正しいと言えない表現である。尊敬の「れる」を付けたから相手への尊敬の言葉になるというのは間違いである。「申す」と「れる」を別々に見てみれば、「謙譲語」と「尊敬語」の複合語であるとわかる人も多いであろう。

良い表現としては、「おっしゃいました」を用いるのが適切である。だが、×をした人の表現を見てみると、「おっしゃいました」以外にいろいろな表現が出ている。以下に詳しく見てみよう。なお、「おっしゃいました」、「おっしゃった」は語尾の表現が違うだけだが、分けて分析した。

まず、2番目にあがった「おっしゃられました」についてであるが、これは「おっしゃる」という尊敬語と「れる」という尊敬の助動詞が接続して出来た言葉である。いわゆる、「二重敬語」と呼ばれるものである。「尊敬語」と「尊敬語」が接続して出来た言葉だから、別に良いと思われているのであろうが、重々しく、堅若しく感じられ、すっきりしない表現ではないだろうか。「おっしゃる」と「れる」とを重複して用いるのは、不適切であると思われる。

次に、目についた表現であるが、「おっしゃりました」は、「おっしゃいました」でもなく、「おっしゃられました」でもない、中途半端な感じの表現である。なぜ、このような表現が出てきたのかわからないが、高校生7.6%、短大生5.1%と、正しい敬語として直した人がいるのである。

「おっしゃりました」の「おっしゃり」は、音変化していない語形である。「おっしゃり」は「おっしゃい」になる前の元の形であり、[oʃsari]の[r]の脱落により、「おっしゃり」から「おっしゃい」に変化していることがわかる。つまり、「おっしゃり」は[r]脱落の前の、音変化していない形であると言える。

この「おっしゃりました」が正しい敬語の表現としてあげられた理由はわからないとしか言えないが、国語教育の中の古典での動詞活用などが影響しているのではなからうか。

次に、Ⅱ.3.の分析結果を掲げ、考察する。

◎「専務はおられますか。」「はい、おられます。」

	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
○	40.2	12.4
×	62.9	85.9
無 効	2.9	1.7

×をした人の表現

- ・「専務はおられますか。」を直した人

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	いらっしゃいますか 13.3	いらっしゃいますか 10.0
	そ の 他 2.9	そ の 他 1.0

- ・「はい、おられます。」を直した人

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	おります 32.4	おります 33.3
2	いらっしゃいます 26.0	いらっしゃいます 29.9
3	い ます 9.2	い ます 11.9
	そ の 他 2.9	そ の 他 1.4

- ・「専務はおられますか。」「はい、おられます。」の両方を直した人

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	いらっしゃいますか、 います 8.7	いらっしゃいますか、 います 6.5
2	いらっしゃいますか、 おります 1.2	いらっしゃいますか、 おります 4.0
	そ の 他 3.5	そ の 他 2.0

×をした人の表現は、以上のように「専務はおられますか。」を直した人「はい、おられます。」を直した人、「専務はおられますか。」「はい、おられます。」の両方を直した人、とそれぞれ分けて分析した。

「おられますか」も「おられます」も、謙譲語の「おる」と尊敬の助動詞の「れる」が接続した言葉である。

×をした人が高校生62.9%、短大生85.9%と半数以上いたが、高校生の○をした人40.2%と×をした人を観察すると、高校生の○×の判断がかなり揺れていると考えられる。

「おられます」という言葉に悩まされて判断が揺れているためであろう。

×をした人の表現を見ると、「はい、おられます。」を直した人が多い。なぜだろうか。質問の「専務はおられますか。」「はい、おられます。」の両方の表現は、先にも述べたように、謙譲語と尊敬語が接続した言葉であり、実際に正しい表現とは言えない。「専務はいらっしゃいますか。」「はい、おります。」と答えるのが適切であろう。しかし、その「いらっしゃいますか。」「おります。」の両方を回答した人が少ない。

次に、気になった表現で、「はい、おられます。」の回答の、「いらっしゃいます」、「います」を見ていきたい。

「いらっしゃいます」は、「いる」の尊敬語である。回答として良さそうな表現のよう

に思われるが、不適切である。話し手、聞き手(受け手)、話の中の人物という関係をよく理解しなければいけない。「いらっしゃいます」というのは、話し手(相手)への敬語でなく、話の中の人物(専務)へ敬意を表わしていることになる。会社の中の関係もわかるが、相手へ悪い印象を与えないためにも、相手へ敬語を使うのが基本である。つまり、社員について話す場合は、謙譲語を用いることが大切である。

「います」は、「いる」の丁寧語だが、先にも述べたように、謙譲語の「おります」で答えることが適切である。

Ⅱ.2.と3.を考察して、「謙譲」+「尊敬」の敬語はかなり混乱していると言えるだろう。

文法的に考えれば、「謙譲」+「尊敬」の複合語だとわかるかもしれないが、普通に何気なく見たり、聞いたりするだけではわからない表現だと言える。

また、「敬語」=「尊敬語」と考え、「申す」「おる」などの謙譲語としての役割が忘れられて尊敬語として考えられていることも、複合語とわからない原因であろう。

(2) 一般化しつつある敬語

ここでは、質問項目Ⅱ.1.と5.と10.を分析し、考察する。なお、Ⅱ.の質問は前節の(1)に示したので、省略する。1.と5.と10.の質問は次のとおりである。

- Ⅱ. 1. お降りの方はございませんか。
- Ⅱ. 5. 課長「今日は疲れたよ。でも残業があるんだ。」
部下「ご苦労さまです。」
- Ⅱ. 10. 心当たりの方は申し出て下さい。

まず、Ⅱ.1.から順に考察する。分析結果は次のとおりである。

◎お降りの方はございませんか。

	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
○	70.2	64.1
×	27.3	32.5
無 効	2.5	3.4

×をした人の表現

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	いらっしゃいませんか 62.7	いらっしゃいませんか 78.9
2	おられませんか 18.7	いらっしゃいますか 5.3
3	いらっしゃいますか 4.0	おられませんか 2.6

3		ありませんか	2.6	
	その他	14.7	その他	7.9

このⅡ.1.の質問は、バスや電車のアナウンスや車掌の呼びかけでよく耳にする言葉である。そのためか、○をした人が多い。

「ございませんか」は、丁寧な言い方であり、悪い表現とは言えない。しかし、「お降りの方はありませんか。」より丁寧な言葉であっても、「お降りの方」に対する言葉としては尊敬になっていない。「お降りの方」を尊敬するには、「いらっしゃいませんか」とするのが適切である。

「ございませんか」でも意味や客に対する心づかいは十分に伝わる。「ございませんか」がよく使われるのは「おりませんか」より、より丁寧であり、「いらっしゃいませんか」よりは畏まっていない中間的な言葉であるためであろう。

「ございませんか」、「いらっしゃいませんか」のどちらにせよ、意味と客へ親切に言おうとする心づかいは伝われば、問題のない表現である。

次に、Ⅱ.5.の析結果を掲げ、考察する。

◎課長「今日は疲れたよ。でも残業があるんだ。」

部下「ご苦労さまです。」

	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
○	83.6	82.9
×	11.6	11.5
無 効	4.7	5.6

×をした人の表現

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)		
1	ごくろうさまでござい ます	25.0	おつかれさまです	48.1
2	おつかれさまです	9.4	ごくろうさまでござい ます	22.2
	そ の 他	65.6	そ の 他	29.6

○をした人が、高校生、短大生とも、8割以上いた。「ご苦労さま」という言葉は、目上の人が目下の人に対して言う言葉と聞いたことのある人もいるだろう。『あなたの「日本語美人度」は何点?』（監修：広瀬久美子）での、①「部長との会話」の質問に、

部長「そうか。いやあ、昨日の出張は疲れたよ。早退したいくらいだ。」

私「ごくろうさまでした。(省略)」

と、「ごくろうさま」に線が引いてあり、正解と解説によると、

ついで、うっかりするのは、(中略)「ごくろうさま」です。これは目上から目下に言う言葉ですから、「お疲れさまでした」と言わなければなりません。

とある。確かに、「ご苦労さま」というのを目下の人が目上の人に対して言えば、今一つ失礼にあたる感じがするようだ。

「お疲れさまです」も一緒に考えてみよう。

「ご苦労さま」も「お疲れさま」も意味は同じである。意味が同じということは、目上の人も目下の人も関係ないのではないだろうか。「ご苦労さま」と「お疲れさま」の違いは、ただ漢語が和語かだけである。「ご苦労さま」が、目上の人が目下の人に言う言葉だと言うのは、漢語の「ご苦労さま」の方が、和語の「お疲れさま」より、重々しく感じられるからであろう。

次に、Ⅱ.10.の分析結果を掲げ、考察する。

◎心当たりの方は申し出て下さい。

	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
○	90.2	92.7
×	6.2	5.1
無 効	3.6	2.9

×をした人の表現

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	おもうしでください 58.8	おもうしでください 58.3
2	おっしゃってください 17.6	おっしゃってください 25.0
	そ の 他 23.5	そ の 他 16.7

高校生も短大生も、ほとんどの人が○をした。よく目や耳にする言葉だからであろう。しかし、「申し出る」というのは、自分の方から相手に言って出ることである。「申す」は謙譲語であり、相手(この質問の場合、心当たりの方)に「申し出て下さい」というのは、おかしいし、失礼である。「心当たりの方はおっしゃって下さい。」という表現が適切である。

×をした人の表現を見ると、高校生、短大生ともに1番目の表現は、「お申し出下さい」である。どちらも約半数を占めている。だが、先に述べた「申し出る」の語頭に「お」が付いただけであり、「申し出る」自体がおかしいことに気付いていない。また、「お」を語頭に付けたことによって尊敬語に、つまり正しい表現になると思われているのではないか。

先に、「申し出て下さい」というのはおかしいし、失礼であると述べた。しかし、この言葉自体、謙譲の意が稀薄になっているようだ。「おかしい」や「失礼」と感じる人は全

くと言って良い程、いないであろう。今では「尊敬」の複合動詞ととらえるのが良いのかもれない。

「申し出て下さい」と同じように、「申し付け下さい」「お申し込み下さい」という表現があるが、「申し出て下さい」と同様のことが言えるであろう。

Ⅱ.1.と5.と10.を考察して、質問で問題としている表現は、ほとんど問題なく普通に使用われ、一般に受け入れられていると思われる。

(3) 先生と敬語使用の関係

ここでは、質問項目Ⅲ.2.を分析し、考察する。質問は次のとおりである。

Ⅲ. 3. ある先生のところに行って、その先生がそこにいらっしやらなかった場合、あなたは友達にそのことを実際にどのように言いますか。当てはまるところに一つ○をつけて下さい。

・校長先生

いらっしやらなかった いなかった いらなかった おらんかった
おられなかった おってなかった その他()

・年の離れた先生

省略(以下も同様に省略していく)

・年の近い(若い)先生

・好きな先生

・嫌いな先生

この分析結果は、折れ線グラフで表わす(図1)。

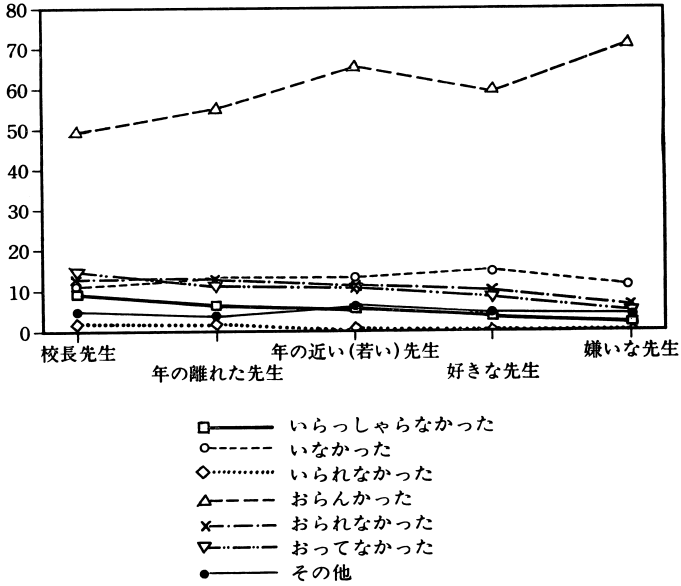
7つの選択肢の中から、次の「おらんかった」「いらっしやらなかった」「おってなかった」「その他」の回答を取り上げ、順に考察する。

「おらんかった」は、敬語ではない。まず高校生の方を見てみると、他の回答に比べて断然多い回答である。「校長先生」のところでは約半分の人が回答し、「年の離れた先生」「年の近い(若い)先生」「嫌いな先生」の質問に行くほど、数値が高くなっている。先生(目上の人)だからといって、敬語を使うとは限らないことがわかる。しかし、この質問のように目の前に先生がいなくて、先生の問題を友達に、又は友達と話す場合、敬語を使って話すことはあまりないのではないか。皆が皆ではないが、恐らく普通になっている習慣と言えよう。これは、高校生だけでなく、短大生にも共通しているといえる。

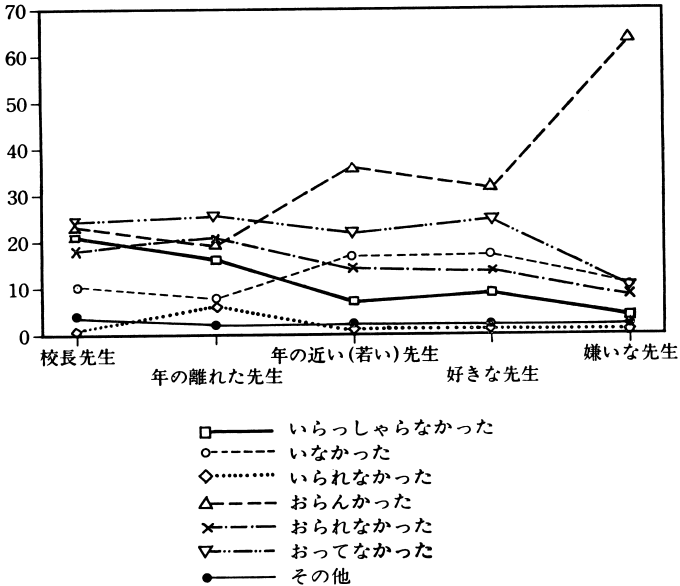
「年の離れた先生」と「年の近い(若い)先生」、「好きな先生」と「嫌いな先生」を比較してみると、数値に大きな差が見られる。特に「好きな先生」と「嫌いな先生」の差がかなりある。これらの差の開きは、それぞれの先生に対する意識(感情)の違いの現われと思われる。「年の離れた先生」と「年の近い(若い)先生」の場合は、「年の近い(若い)先生だ」と「尊敬」という意識が薄れ、どこか友達のような感じ、友達程度の存在に見られ、「年の離れた先生」との差が出たと思われる。「好きな先生」と「嫌いな先生」の場合は、「嫌いな先生」に対して、嫌いそのままの感情が現われ、差が出たのであろう。

(図1)

○ 高校生



○ 短大生



短大生の方を見てみると、高校生の数値に比べて低い。特に「校長先生」と「年の離れた先生」では、2番目、3番目に「おらんかった」の回答が出ており、高校生との差が大きい。短大生は高校生より「校長先生」「年の離れた先生」に対して、敬語でない言葉を使うことが少ないと言える。つまり、目上の人には敬語を使うという意識を持つ人が多い。

「年の離れた先生」と「年の近い（若い）先生」、「好きな先生」と「嫌いな先生」の結果では高校生の場合と同じく数値に大きな差が見られるが、「好きな先生」と「嫌いな先生」の結果は、高校生の結果以上に、さらに差の開きが大きい。差の開きについては、高校生のところで述べたことと同じようなことが言えるだろう。

「おらんかった」をはじめ他の結果も少し見て、短大生は高校生に比べ、先生に対して敬語を使って話す先生、敬語を使わずに話す先生と、言葉を使い分けている人が多いと思われる。

次に、「いらっしやらなかつた」「おってなかつた」を一緒に考察してみる。

「いらっしやらなかつた」と「おってなかつた」はともに尊敬語であるが、「おってなかつた」の方は、広島弁の敬語である。高校生、短大生とも、「おってなかつた」の方が「いらっしやらなかつた」より、多く使われている。これは、「おってなかつた」が「いらっしやらなかつた」より、自然に出てくる言葉、又は「おってなかつた」の方が短くて言いやすい言葉であるためだと考える。

「年の離れた先生」と「年の近い（若い）先生」、「好きな先生」と「嫌いな先生」の結果で、前に考察した「おらんかった」と逆（反比例）の現象が見られる。「年の離れた先生」と「年の近い（若い）先生」の場合、「年の離れた先生」の方に敬語を使う人が多く、「好きな先生」と「嫌いな先生」の場合「好きな先生」の方に敬語を使う人が多い。「おらんかった」の結果と逆の結果とはいえ、「おらんかった」と同じように、敬意や感情の違いが現われていると言えるだろう。

最後に「その他」の考察をする。

「その他」の回答の中で、どの先生の場合でも共通して多く見られた回答は、「おってんなかつた」と「おられんかつた」であった。特に「おってんなかつた」が5：1の割合で多かった。

「おってんなかつた」は、広島弁の「おってなかつた」に撥音〔n〕が入った言葉である。「おられんかつた」より多かった理由は、前の「おってなかつた」のところで述べているような、自然に出てくる、使い慣れている言葉であるからと言えるだろう。

「おられんかつた」は、「おられなかつた」[orarenakatta]の〔na〕の〔a〕、つまり母音が脱落して出来た言葉である。ちなみに「おられんかつた」は、3の(1)で述べている謙譲の「おる」と尊敬の「れる」が複合した言葉である。

「嫌いな先生」の「その他」の回答を見ると、数値としては他の先生の「その他」とあまり変わらないのであるが、他の先生の「その他」の回答と違い、良くない（悪い）言葉が多くあげられている。その一部を次にあげてみる。

- いねー
- いやしねー

- おらん（でー）
- おりやがらん

上のような言葉は、高校生の男子が少しだけ、高校生の女子と短大生より多かった。しかし、あまり目立った差は見られない。性別、年齢差に関係なく、「嫌いな先生」に対しての気持ちがそのまま言葉に現われていると言えるだろう。

(4) 「しりません」、「きいてません」

ここでは、質問項目Ⅲ.4.を分析し、考察する。質問は次のとおりである。

Ⅲ. 4. 左のマンガに出てくる、若い人たちが上司に使うコトバは適当ではありません。以下のコトバを正しい使い方に直して下さい。（質問中のマンガは最後の資料の項目で掲げる。）

- ・しりません
- ・きいてません
- ・いいました（これは考察しない。）

まず、はじめに「しりません」を考察する。分析結果は次のとおりである。

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	ぞんじません 41.1	ぞんじません 63.7
2	わかりません 12.7	ぞんじあげません 6.4
3	ぞんじておりません 6.9	わかりません 4.7
4	ぞんじあげません 4.7	ぞんじておりません 2.6
〃		しりませんでした 〃
	そ の 他 18.5	そ の 他 4.7
	無 効 16.0	無 効 15.4

結果の1番目に出ているように、上司に対しては、「しりません」ではなく、「ぞんじません」が適切である。相手に対して使うべき敬語として、謙譲語の「ぞんじません」というのがあるのだから、使用した方が良い。実際には、「しりません」の方がよく使われるであろう。

高校生の2番目の回答と、短大生の3番目の回答に、「わかりません」という表現があがっている。しかし、「わかりません」というのはおかしいのではないか。「しりません」と「わかりません」の違いまで取り上げないが、「わかりません」は上司に対して使うべき言葉ではないので、不適切である。

次に、「きいてません」を考察する。分析結果は次のとおりである。

順	高 校 生 (%)	短 大 生 (%)
1	きいておりません 31.3	きいておりません 33.3
2	おききしておりません 6.9	おききしていません 10.3
3	おききしていません 5.5	うかがっておりません 9.4
4	きいてません 4.4	おききしておりません 5.6
5	きいてませんでした 4.0	うかがって(い)ません 4.3
	そ の 他 25.1	そ の 他 10.7
	無 効 22.9	無 効 21.4

高校生も短大生も、ともに1番目の回答は「きいておりません」である。しかし、「聞く」の謙譲語に「うかがう」というがあるので、ここでは「うかがっておりません」を使用するのが適切である。この「うかがう」という言葉について、次のような面白い結果を得ることができた。

分析結果の数値で、高校生は1年生も2年生も高校生として一緒に結果を出しているが、別々にして結果を見てみると、高校1年生では「うかがう」という言葉が全く出ていない。高校2年生では「うかがう」という言葉（「うかがって(い)ません」「うかがっておりません」）を回答した人は8.0%であった。ちなみに短大生は、17.9%であった。高校1年生、高校2年生、短大生と年齢が上がるにつれて、数値も上がっている。このことについて、次に考察してみたい。

前の高校2年生の数値には、男子と女子の結果が一緒になっているので、女子ばかりの短大生とは比較しにくい。そこで、高校2年生の数値を男女別に分けてみると、8.0%中男子は2.0%で、女子は6.0%であった。1：3の割合で女子の回答の方が多い。少なくとも、この結果からは、女子の方が男子より「うかがう」という言葉を知っているものと考えられる。

年齢から見た場合はどうであろう。高校1年生と2年生の間は1歳、高校1年生と短大生の間は3歳、高校2年生と短大生の間は2歳の年齢差がある。しかし、年齢差がどれだけあろうが、知らない人は答えることができないし、使い慣れない人も同様のことが言える。ゆえに、年齢差は関係ないものと考ええる。

高校1年生は「うかがう」という言葉を知らないのであろうか。ただ、使い慣れないだけで、すぐ思い浮かぶのは「きいてません」を変化させた言葉なのではないか。これは、高校1年生だけでなく、高校2年生、短大生にも共通して言えることであろう。

次に、「その他」の回答で、明らかにおかしいと言えるものはいくつかあった。一部をあげてみる。

- a 覚えがありません
- b きいたことはありません
- c ききのがしました

- d お耳にしていません, おりません
- e お耳に入っておりません
- f おききなさってません
- g おききになっておりません

これらの回答は、特に高校生に多かった。高校生を男女別に見てみると、2：1の割合で男子の方が多い。a～cの責任逃れのような言葉や、d～gの敬語に混乱が見られる言葉づかいが出ているが、どのように勘違いして、間違っているのかわからない。

a～cの責任逃れのような言葉については何も言えないが、d～gの敬語の混乱は、「敬語」というものをよくわかっていない、特に、尊敬語と謙譲語の区別ができていないことを証明している。

4 現代敬語の特色

(1) 現代敬語の問題点

2, 3, とアンケートの回答結果を基に考察を進めてきた。ここでは、それらの考察を踏まえながら、現代における敬語の問題点について考えてみたい。

敬語には、尊敬語・謙譲語・丁寧語の3つの種類がある。しかし、前に考察してきたことからわかるように、現代では、これらの区別がつかなくなってきたと言えるだろう。特に、尊敬語と謙譲語にその傾向が見られる。尊敬語と謙譲語の区別がつけられなくなっている今、現代の敬語は丁寧語を中心に動いていると言えるだろう。2の(3)の敬語の種類の使用しやすい順に関する結果からもわかるように、高校生、短大生ともに1番目の回答は丁寧語で8割以上を占めていた。

それから、尊敬語には尊敬語の、謙譲語には謙譲語の特定の語を持つものがある。例えば尊敬語は、

- 召しあがる (食べる)
- おっしゃる (言う)
- いらっしゃる (来る, 行く, 居る)

などで、謙譲語は、

- うかがう (聞く, たずねる)
- いただく (もらう)
- 申しあげる (言う)

などである。これらの語はだんだん使われなくなってきたり、形を簡単にして用いる傾向がある。尊敬の助動詞「れる」を付けたり、語頭に「お」や「ご」を付けたりといった形である。つまり、特殊な語の使用は避け、簡単な形を使用しようとする動きが、現代に見られるであろう。

(2) 敬語使用の留意点

私達が敬語を使うのは、身分・上下関係をはっきりさせるため、慣習にならうため、自分と相手との距離を置くため、自分自身の品位を保つため、相手への印象をよくするため

などいろいろなことが考えられる。これらの使用目的を基に、敬語を上手く使うための現代敬語の留意点として、以下のことが挙げられると思う。

1. 敬語には、尊敬語・謙譲語・丁寧語の3種類を区別すること。
2. 謙譲語と尊敬語の区別を付け、謙譲語を尊敬語として間違えて使用しないこと。
3. 話し手、聞き手、話題の人物といった人間関係（生徒と先生の関係、社内関係、会社間関係、店員と客などの関係など）をよく理解して敬語を使用すること。
4. 語頭に「お」や「ご」を付けすぎないこと。
5. 敬語の付けすぎ（二重敬語）、使いすぎを慎むこと。

まだ多くのことが考えられるかもしれないが、以上の5つの点をわきまえ、敬語に注意を払っていかなければ、敬語はどんどん廃れていくだろう。

おわりに

卒業論文を書き進めてきて、初めから終わりまで思ったことは、「難しい」の一言である。「敬語」は、人間関係というものを適確にとらえなければ上手く使えない。それが上手くいかないから、「敬語」を難しく感じるのではないかと私は思った。人間関係が複雑な場合もあり、敬語の使用に困難を感じる時もあるだろう。その時には、各々のその場の判断に頼るしかない。「敬語」は言葉づかいと同じように、すぐには直らない「癖」のようなものだと思う。常日頃から注意しなければ、困難を感じた時などに、自分が恥ずかしい思いをするだけだろう。

「敬語」を卒業論文で取り上げることにより、自分の敬語づかいを見直すことができたと同時に、敬語の問題点なども知ることができた。就職を控えた私にとって、この卒業論文はプラスになり、大変よかったと思う。さらにそのままプラスの成果が現われれば、卒業論文の意義はあったと思う。

最後に、アンケートに回答して下さった高校生と短大生の皆さん、そして、高校生のアンケートをとるにあたり、快く御協力して下さった広島市立舟入高等学校の宮崎浩文先生に、この場を借りてお礼を申し上げる。

(注)

注1 『with マリア』No.1所収 講談社 1989年4月10日

(参考文献)

- ・『NHK はなしことば講座』（1989年4月～1989年9月）⑬、⑭、⑮ 平成元年4月
- ・『改訂版 新総合国語便覧』（覧修：三好行雄，稲賀敬二，森重繁夫）第一学習社 昭和61年2月1日改訂十版 340・346ページ

<資料>

…敬語についてのアンケート…

比治山女子短期大学

国文科 二年 内 山 理 恵

私は今、“現代敬語事情”という題目で卒業論文に取り組んでいます。
みなさんがふだん使っている敬語について教えて下さい。

- 性 別 (男・女)
- 生年月日 昭和 年 月 日
- 年 齢 () 歳
- あなたは広島に何歳から何年間、住んでいらっしゃいますか。
() 歳から () 年間

I. 下記の質問を読んで、自分の答えに当てはまるところを○で囲んで下さい。また、6.の質問については、()に番号を書いて下さい。

1. 敬語を上手く(正しく)使えますか。
使える だいたい使える 少し使える あまり使えない 使えない
2. 「敬語を使うのは難しい」と感じたことはありますか。
ある ときどきある ない
3. 人の話しているのを聞いて、敬語の使い方がおかしいな、間違っているなど思ったこと、気付いたことはありますか。
ある ときどきある ない
4. 自分で話していて、敬語の使い方がおかしかったな、間違ったなど思ったこと、気付いたことはありますか。
ある ときどきある ない
5. 先生に対して敬語を使いますか。
使う 先生によって違う 使わない
6. 尊敬語(おっしゃる, いらっしゃる…), 謙譲語(申す, 申しあげる, さしあげる…), 丁寧語(です, ます, ございます…)の中で使いやすい順は。
尊敬語 () 謙譲語 () 丁寧語 ()

Ⅱ. 下記の文を読んで、敬語の使い方が正しいと思うものには○、正しくないと思うものには×を()に入れて下さい。また、正しくないと思う文は、その部分に下線を引き、正しいと思われる表現を〔 〕に書いて下さい。

1. お降りの方はございませんか。
() []
2. 大臣が申されました。
() []
3. 「専務はおられますか。」「はい、おられます。」
() []
4. 先生、もう一度、言ってもらえませんか。
() []
5. 課長「今日は疲れたよ。でも残業があるんだ。」部下「ご苦労さまです。」
() []
6. 先生が私のところへうかがったとき…。
() []
7. この品物はご自分でお持ちしますか。
() []
8. 校長先生の申した点について質問があります。
() []
9. 先生、こちらに参りませんか。
() []
10. 心当たりの方は申し出て下さい。
() []

Ⅲ. 下記のそれぞれの質問を読み、○をつける問題には○、文を書くところには文を書いて下さい。

1. A, B, Cそれぞれ三つずつ文を挙げています。それぞれ、実際によく使うものに一つ○をつけて下さい。
 - A 1. ベットにえさをやる 2. ベットにえさを与える 3. ベットにえさをあげる
 - B 1. 花に水をやる 2. 花に水を与える 3. 花に水をあげる
 - C 1. 子供に菓子をやる 2. 子供に菓子を与える 3. 子供に菓子をあげる
- 1'・では、本当にこれが正しい、適当だと思われるのはどれですか。上のように一つ○をつけてください。上と同じ場合があってもかまいません。
 - A 1. ベットにえさをやる 2. ベットにえさを与える 3. ベットにえさをあげる
 - B 1. 花に水をやる 2. 花に水を与える 3. 花に水をあげる
 - C 1. 子供に菓子をやる 2. 子供に菓子を与える 3. 子供に菓子をあげる
2. ある人がとても可愛がっていたペットが死んでしまい、その人が「うちのペットが亡くなったんです。」というのを聞いて、あなたは どう思いますか、感じますか。

